

2019年度事業報告

中野区立療育センターアポロ園

療育センターアポロ園の事業運営目的は、「障害やさまざまな発達上の課題のある子ども達が、自分のもっている力を十分に発揮し、家庭や地域の中でともに生活ができるようになるための支援をする」こととしています。

2014年度（平成26年度）より社会福祉法人全国重症心身障害児（者）を守る会が指定管理者として運営を始めて、2019年度（平成31年度）は6年目となりました。各事業評価などを分析し改善を図るとともに児童発達支援事業アンケートで寄せられたご意見やご提案などから、着実な事業の実施に向けて取り組んでまいりました。また、職員の確保・定着・育成を図り円滑な事業運営に努め、利用者サービスの一層の向上を図ってまいりました。

I 職員配置（令和2年3月31日時点）

- 常勤職員：園長1名・事務職1名・児童発達支援管理責任者1名・保育士3名
（他育休1名）・児童指導員3名（他育休1名）・心理職6名・看護師
（育休1名）・理学療法士1名・作業療法士1名 計17名（育休3名）
- 非常勤職員：心理職4名・保育士3名・児童指導員3名・理学療法士1名・言語
聴覚士2名（他産休1名）・看護師1名・事務職2名・歯科衛生士1
名 計17名（産休1名）
- 嘱託医師：小児神経医師1名・小児科医師2名・児童精神科医師2名・歯科医
師1名・水療育講師1名 計7名

II 事業実績

1 児童発達支援事業

中野区内に在住し、通所受給者証の交付を受けた児童（医療的ケアを必要とする児童も含む）に対して3クラスに分けて支援を行いました。

1日定員は40名で運営してまいりました。

- ・延利用人数 7,639人（平成30年度7,867人）
- ・利用率 68.9%（平成30年度67.8%）

1) 2歳児以下クラス（ラッコ）

- ・1日定員 14人
- ・10時00分から13時00分
- ・1歳児：週1日、2歳児：週2日（親子通園）
- ・利用率 54.6%

2) 3歳児以上クラス（コアラ）

- ・1日定員 16人
- ・10時から14時30分

- ・週 5 日（3・4 歳児：週 3 日単独通園・2 日親子通園、5 歳児：週 5 日単独通園）
- ・利用率 76.8%

3) 個別指導クラス

- ・対象児枠 180 枠程度
- ・指導は原則月 2 回、1 回当たり 50 分程度、月曜日から土曜日に実施します。

① 平日

- ・一日定員 10 人
- ・利用率 78.2%

② 土曜日

- ・一日定員 40 人
- ・利用率 66.5%

4) 保護者教室の実施

① 開催日 5 月 14 日

テーマ 「コミュニケーションの力を育てることについて」
言語聴覚士 二階堂和子

参加人数 10 人（コアクラス保護者）

② 開催日 6 月 3 日

テーマ 「コミュニケーションの力を育てることについて」
言語聴覚士 二階堂和子

参加人数 11 人（ラッコクラス保護者）

③ 開催日 7 月 23 日

テーマ 「食について」管理栄養士 小俣孝子

参加人数 5 人（ラッコクラス保護者）

④ 開催日 8 月 31 日（野方区民活動センターギャラリー）

テーマ 「子どもの好ましい行動の増やし方～子どもたちに肯定的な
注目を～」東京都心身障害児総合医療療育センター 北道子

参加人数 41 人（個別指導クラス保護者）

⑤ 開催日 9 月 26 日

テーマ 「こどもの食について」管理栄養士 永野由紀子

参加人数 10 人（コアクラス保護者）

⑥ 開催日 12 月 3 日

テーマ 「言葉の発達について」言語聴覚士 二階堂和子

参加人数 13 人（ラッコクラス保護者）

⑦ 開催日 1 月日

テーマ 「食について」管理栄養士 山本隆子

参加人数 11 人（ラッコクラス保護者）

2 療育相談事業

中野区内に在住する未就学児を対象としており、発達上の課題や障害があると思われる児や保護者の相談を受けアセスメントを行い対応方法の提案をしました。ま

た、当園の児童発達支援事業、個別指導の初期インテークとして処遇方針を決定し提案しました。

- ・療育相談件数 148件（平成30年度138件）

3 保育園等巡回訪問事業

発達上の課題や障害があると思われる子どもが在籍する保育園・幼稚園などに、巡回訪問担当者が定期的に巡回し、対象児及び保護者への対応を保育者に対して提案、助言を通して支援を行いました。

- ・訪問延べ件数 437件（平成30年度348件）
- ・対象児延べ人数 1,856人（平成30年度1,502人）
- ・訪問園数 62園（平成30年度52園）
- ・平均訪問回数 7.0回（平成30年度6.7回）

4 障害児相談支援事業（相談支援事業所アポロ）

児童福祉法に基づく「相談支援事業所」です。

- ・開設日 : 平日月曜日から金曜日
- ・開設時間 : 9時00分から17時00分
- ・契約件数 100件（平成30年度51件）
- ・障害児相談支援援助 163件（平成30年度16件）
- ・継続障害児相談支援援助 72件（平成31年度より実施0件）

5 一時保護事業

中野区内に在住する小学生以下の発達障害のある児童の保護者が、対象児を介護することが困難になったときに、児童を一時的に保護し、当事者の福祉の増進を図りました。また、医療的ケアの必要な児童も受け入れ、緊急時の対応も行いました。

月曜日から土曜日9時00分から18時00分（但し土曜日は16時00分迄）

- ・利用件数 : 240件（平成30年度289件）
- ・利用日数 : 167日（平成30年度183日）
- ・医療的ケア受け入れ件数（再掲） : 4件（平成30年度11件）

6 おもちゃライブラリー事業

おもちゃ及び関係図書を、発達促進と福祉の増進に寄与することを目的に、療育センターアポロ園内におもちゃライブラリーを置き地域開放をしました。障害児（者）だけでなく就学前の健常児も利用しました。

- ・利用人数 : 660人（平成30年度591人）
- ・貸出点数 : 516点（平成30年度602点）

7 児童発達支援事業利用児のきょうだいで対応保育人事業

児童発達支援事業では、通園児への日常生活における基本動作や集団生活への適応指導など、療育を通して保護者も含め実施している。通園児と一緒にきょうだい

児が来園した時、きょうだい児に対応する保育人を確保してきょうだい児を支援しました。

- ・登録児 : 5人 (平成30年度10人)
- ・利用延べ件数 : 41人 (平成30年度71人)

8 中野区立療育センターアポロ園地域資源啓発事業

発達障害児に対する正しい理解と適切な対応を促進する目的のもと、地域の私立幼稚園や保育園の保育者等を対象に学習会を開催しました。また、職員研修の一環としても活用しました。

<第1回>

- ・開催日 令和元年7月26日(金)
- ・テーマ 「保育園・幼稚園における保護者支援」
 大正大学心理社会学部教授 玉井邦夫
- ・参加人数 51人

<第2回>

- ・開催日 令和2年1月24日(金)
- ・テーマ 「事例を通して「保護者支援」を考える」
 大正大学心理社会学部教授 玉井邦夫
- ・参加人数 62人

以上